

JAALD

Bulletin of Japan Association of
Agricultural Librarians and Information Specialists

日本農学図書館協議会誌

No. 217 2025年3月

BioOne Digital Library は、生物学、生態学、環境科学に関する200以上の雑誌と360以上の電子書籍を提供するプラットフォームです。BioOne Digital Libraryでは下記の製品が提供されています。

- BioOne Complete (電子ジャーナル・コレクション。年間購読)
- BioOne Complete Archive (電子ジャーナルのアーカイブ・コレクション。買い切り)
- ESA eBook Collection (電子書籍コレクション。買い切り)
- CSIRO Publishing BioSelect Collection (電子書籍コレクション。買い切り)

BioOne Complete

生物学、生態学、環境科学を中心に、150以上の出版社から200誌以上の電子ジャーナルを収録するコレクションです。

獣医学、植物科学、鳥類学、昆虫学など、幅広い分野の高品質なジャーナルへのアクセスを使いやすいプラットフォームでリーズナブルに提供します。

<https://bioone.org/browse/title>

ESA eBook Collection



アメリカ昆虫学会 (Entomological Society of America) の書籍160冊以上を収録するコレクションです。

これらの書籍は2023年に初めて電子化され、BioOneでのみ提供されています。昆虫学者、動物学者、その他関連分野の研究者の教育的・専門的ニーズに対応するために作成されました。

<https://bioone.org/esa-ebooks>



CSIRO Publishing BioSelect Collection



CSIRO Publishing (オーストラリア連邦科学産業研究機構の出版部門) の書籍200冊以上を収録するコレクションです。

当コレクション(CSIRO Publishing BioSelect Collection)は、生物学の幅広い分野において、数十年にわたる信頼できる知見を提供します。

オーストラリアのユニークな種だけではなく、世界的な応用を伴う主要な研究成果も含まれます。

<https://bioone.org/csiro-ebooks>



BioOne 紹介ページ (日本語) : お問い合わせフォームもあります ➡

無料トライアル申込やお見積依頼、ご質問など、お気軽にお問い合わせください。



【日本総代理店】



お問い合わせ先 : ユサコ株式会社 プロダクト部 BioOne担当

〒106-0044 東京都港区東麻布 2-17-12

Email: product@usaco.co.jp

特定非営利活動法人（NPO法人） 日本農学図書館協議会

ともに学び、変わる。未来へ続く図書館へ

日本農学図書館協議会 会員募集中

いま 世界的に 図書館運営が 大きく変わろうとしています
大学図書館 公共図書館 研究機関図書館 企業図書館 それぞれ
独自の取り組みが求められており 新しい運営が模索され 生まれています
当協議会は 農学図書館に限らず 各種図書館の先端的な取組みに関して
現場の図書館員に向けて 新鮮な情報を 会誌を通じてお届けしています
また 図書館運営・情報管理等に関するセミナーや見学会なども 開催しています
これからの時代を担う図書館員・図書館運営に関心のある皆様と
ご一緒に 次世代の図書館を創っていきたいと考えます
皆様の ご参加をお待ちしています

個人会員 5,000 円（年間）

団体A会員 10,000 円（年間）（大学・公共図書館、研究所など各種機関）

団体B会員 30,000 円（年間）（民間企業）

*会員には会誌（年4回刊行）をお届けします
セミナー・見学会：会員特典あり

【入会方法】

入会申込書に必要事項をご記入の上、事務局宛にFAX、メールでお申込みください。

入会申込書(個人会員、団体会員別)はこちら↓からダウンロードできます。

http://jaald.life.cocan.jp/info_20230307/

特定非営利活動法人（NPO法人）
日本農学図書館協議会 事務局
東京都世田谷区桜丘 1-1-1
東京農業大学 教職・学術情報課程内
Tel, Fax : 03-3408-5077
E-mail : jaald@nifty.com

日本農学図書館協議会誌 217号 (2025年3月)

目 次

『世界のアゲハチョウ図説』-昆虫図鑑制作における学名考証の苦勞と発見- 枝 恵太郎	1
農学分野における学部・大学の新增設の動向 長塚 隆	7
【図書館紹介】 岩手大学図書館 岩手大学図書館	13
第26回図書館総合展2024 訪問 尾崎 聖太郎	16
事務局報告	18

Bulletin of the Japan Association of Agricultural Librarians and Information Specialists

No.217

March, 2025

ISSN 1342-1905

CONTENTS

Hardships and discoveries in organizing scientific names in the production of illustrated book "Papilionidae of the World" Keitaro EDA	1
Current Trends in New Faculty and University Expansion in the Field of Agricultural Sciences Takashi NAGATSUKA	7
【Introduction of the University Library】 Iwate University Library Iwate University Library	13
Report on visiting the 26th Library Fair & Forum 2024 Seitaro OZAKI	16
Note from JAALD	18

『世界のアゲハチョウ図説』 -昆虫図鑑制作における学名考証の苦勞と発見-

Hardships and discoveries in organizing scientific names in the production of
illustrated book "Papilionidae of the World"

枝 恵太郎 (昆虫文献六本脚)*

キーワード：世界のアゲハチョウ図説、昆虫図鑑制作、学名整理

1. はじめに

「世界のアゲハチョウ図説」(中江信著、西山保典・Adam Cotton監修：昆虫文献六本脚刊)¹⁾は、2021年11月に刊行された世界のアゲハチョウ科29属603種を美しい画像で完全掲載した大図鑑です(以下、「アゲハ図説」とします)。世界各国から多くの昆虫図鑑が刊行されてきた歴史の中で、世界のアゲハチョウ科全種を1冊で見ることができる図鑑はこれまでありませんでした。実際の企画から執筆、標本収集や標本の入手が不可能な種の画像入手等は、著者らの人生を賭けた努力の結晶であり、1種1種のアゲハチョウに対する背景には、夢とロマンに溢れる別の物語があります。ここでは、原稿や標本画像がおよそ揃った状態からスタートし、図鑑に仕上がるまでの編集側のごく一部の苦勞談を書かせていただきます。



図1 世界のアゲハチョウ図説

2. 編集側の作業分担

今回のアゲハ図説作成について著者から原稿を持ち込まれた時をスタートとし、作業は画像とテキストレイアウトを著者と詰めることから開始しました。この時に編集側スタッフの専門性から、下記の分担としました。

- 1) 全体のレイアウト調整と入稿までのスケジュール管理
- 2) 画像加工と組版、入稿データ作成
- 3) テキストおよび画像の配置やキャプションの校正

*昆虫文献六本脚 〒102-0075 東京都千代田区三番町24-3 三番町MYビル 3階

*Keitaro EDA Roppon-Ashi Entomological Books, Sanbancho MY building, Sanbancho 24-3, Chiyoda-ku, Tokyo. Postal Code 102-0075

4) 個々の種に関する記述内容や学名等の妥当性

通常の出版社であれば1) -3)までが編集側の担当なのですが、4)を編集側でも客観的に確認し著者と擦り合わせていくことが、専門出版社ならではの技術の見せどころです。本原稿ではタイトルのとおり「学名考証の苦労と発見」に焦点を当てるとともに、昆虫図鑑制作の奥深さの一端を知っていただければと思います。昆虫図鑑作成については、アゲハ図説制作についても登場する川井(2024)「昆虫図鑑の作り方 - 自費出版の手引き -」²⁾も参照ください。

3. 学名の大切さ

昆虫図鑑を作ろうと考える人は、図解する昆虫の正しい名前を表記しなければなりません。日本語の図鑑であれば和名表記だけで良いと思われるかもしれませんが、グローバル化のこの時代、どの国の言語で書かれている図鑑にもほぼ学名が併記されています。これは学名のみが世界中の人が共通認識としてその種を示すまたは理解する名称だからです。特に世界の昆虫図鑑を謳う場合は、学名表記は不可欠になります。そのため図鑑制作者側は適切な学名の選択をするにあたって、基礎的な学名概念とルールを知っておかなければなりません。現行の動物の学名は、スウェーデンの博物学者リンネ(Carolus LinnaeusまたはCarl von Linné)による1758年に発刊された「Systema Nature 第10版」³⁾が起点とされ、今日に至っています。リ

ンネによる動植物の学名は、常に属名と種小名の2語の組合せによるもので、二名法と呼ばれます。この表現の原則の元、動物の学名は「国際動物命名規約」によって厳しく規定されています。一例をあげると、東京でも普通に見られるキアゲハは「*Papilio machaon* Linnaeus, 1758」とアゲハ図説には表記されます。学名は、*Papilio*(属名)+ *machaon*(種小名) の二名式、Linnaeus(命名者)と1758(記載年)が併記されているのですが、先のリンネによるSystema Nature 第10版がキアゲハの原記載になります。誌面の都合上このくらいに留めますが、さらに詳しく知りたい方は最新ルールブックである「国際動物命名規約第4版日本語版」⁴⁾、それを読み解く参考書の解説書「動物学名の仕組み」⁵⁾、そして昆虫関係の学名を事例にした「学名論: 学名の研究とその作り方」⁶⁾、「学名の知識とその作り方」⁷⁾などをご参照ください。

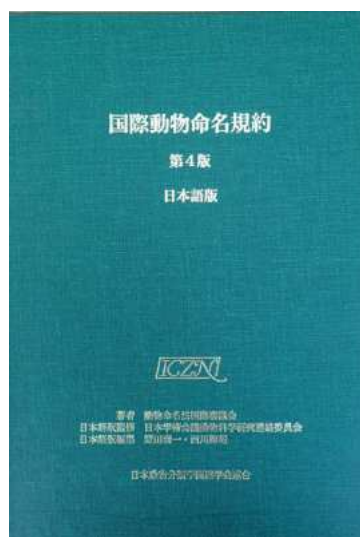


図3 国際動物命名規約第4版日本語版

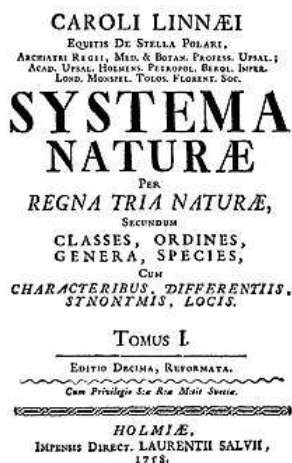


図2 Systema Nature 第10版

4. 学名考証の難しさ

学名の確認は原記載を確認したのち、その後の変遷と最新の分類学的知見までを鑑みて決定します。今回アゲハ図説に掲載されたアゲハチョウ科の種は、リンネの時代に命名された種が多く、その後の変遷を追うために膨大な(250年以上分の)資料の確認が必要となります。なお、新種記載された動物の学名はZoological Recordに収める慣例となっており、学名の確認については、長らくこれに頼っていた時代が

あります。Zoological Recordは1864年にロンドン動物学協会によってThe Record of Zoological Literatureとして印刷出版されたのが始まりで、1870年にZoological Recordに改名されています。印刷版は2016年に終了していて、現在は電子版が発行されています。

私の担当した学名等の妥当性を確認する際の一番の問題は、後年の研究者による学名の整理や変更の際の誤記などが現代まで引きずっている事例が多々見られたということで、今回のように一つの大きな分類群を整理表現する機会に誤りを正すことは、「世界の」図鑑を刊行する際のひとつの目的だと考えます。特に亜種名については、近年細分化される傾向もあるため最新の研究報告も確認しておかなければなりません。先にあげたキアゲハも40を超える亜種が記載されています。アゲハ図説には1種当たり併記するテキストの文字数にある程度制限があるため、トピックのある亜種の解説のみとなりましたが、この亜種名の採否(本文内容における採否ではなく、本文に登場する亜種名が一般的に採用されているかどうかという意)なども、原記載からの確認が必要となるわけです。

5. 実際の確認

原稿が出そろってようやく編集側の確認作業(今回の苦労談)が始まります。世界に頒布する図鑑を刊行する出版社として、誤記や誤解を与える表現が無いようにという視点の元で校正を行うのですが、私が主に担当したのは「記述内容や学名等の妥当性」の部分です。著者らが何度も推敲した原稿について、第三者の目で校正を行うことによって、原稿の精度を上げていきます。まずは、校正段階で、1種ずつ丁寧に「属・種小名・命名者名」のスペルと、当該種名の原記載における「命名者名・記載年」の整合を確認します。先にあげたように、250年間のうちに色々な学名の変遷の中、誤記された資料からの孫引きなどが原因となるミスを洗い出します。この作業は私自身アゲハチョウと同じ鱗翅目(蝶蛾の仲間)であるヤガ科(蛾の仲間)の分類学的研究をしていることが仕事にも活用できることになりました。特にアゲハチョウ科の学名もその構造やラテン語文法の知識のもと、簡単

な誤字脱字はある程度一目でわかることが時間の節約にもつながりました。なお、今回の学名等のチェックについてはZoological Recordは利用せず、世界の鱗翅目のカタログが掲載されている大英博物館のWebsite(The Global Lepidoptera Names Index)⁸⁾を利用しながら1種1種確認していきました。



図4 世界の鱗翅目の学名検索サイト

またリンネのSystema Nature第10版以降、Zoological Recordが発行される以前の約100年間分の学名の著者と著作物がまとめられたHorn & Schenking(1928)⁹⁾も利用しました。

今は便利な世の中になって、原記載の資料名をインターネット検索すると、古い資料で日本にはおよそ原本が無いだろうと思われるものも、ほぼ入手することができます。ただし、私も自分の研究する分野については、先人に倣って可能な限り原本(紙媒体)を購入してきました。紙とPDFの利用方法の違いは確実にあります。PDF資料は単語検索ができる形のものも多いのですが、古いドイツ語のフラクトゥールで書かれた原記載は結局目と手で確認していくことになりまして、紙媒体原本が手元があれば、付箋を挟んでおくだけであとからいつでもすぐに確認できるのですが、PDFは見たい項目を探すのに手間がかかります。

6. いくつかの問題

さてアゲハ図説の原稿の学名等の確認をしている中で、あらためて深く印象に残った事項と、

著者らとの擦り合わせで検討発見修正した事例を2つあげました。

1) 命名者の考証

ヨーロッパから中央アジアに生息するタイスアゲハは *Zerynthia polyxena* ([Denis & Schiffermüller], 1775) と表記されることが多いのですが、アゲハ図説原稿では当初命名者、記載年の表記は (Schiffermüller, 1775) となっていました。本種が記載された「ウィーン地方のチョウの系統的研究報告」¹⁰⁾ は当時匿名で書かれ、しかも同じ内容で表紙タイトルの異なる2種の書籍が異なる年に発行されていたことで、混乱していました。

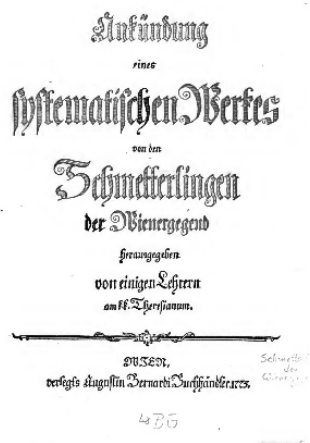


図5 「ウィーン地方のチョウの系統的研究報告」表紙

この問題は1948年にパリで開かれた命名審議委員会に取り上げられ、多くの専門家の意見を集約したのちに本書の著者名と発行年は「[Denis & Schiffermüller], 1775」とすると解決されており、意見書 (Opinion 516) としてまとめられ報告されています (Hemming, 1958)¹¹⁾。ところが、近年単一著者 (Ignaz Schiffermüller のみ) に記すべきであるという主張があらためて提出されたのですが (Kudrna & Belicek, 2005)¹²⁾、この議論には多くの誤りがあるという反証論文が提出されました (Sattler & Tremewan, 2009)¹³⁾。これらのことを踏まえて、著者の中江氏を通じて監修者である Adam Cotton 氏と確認を行いました。Cotton 氏は当初 Kudrna & Belicek (2005) を支持していたと

いうことですが、現在の命名審議委員会で深く議論されたわけではなく、まだ「最終的な解決策」には至っていないということ、日本では一般的に使われている「[Denis & Schiffermüller], 1775」を採用することになりました。蛇足ですが、本書もフラクトゥール(ブラックレター)で書かれています。かつて本書は著者名も書かれていなく記載も不明なため、書かれている学名はすべて無効という極論もあったとのこと(ドイツ語を母国語としない人間が、フラクトゥールを読むのが面倒だからそんな発言を行った)。匿名については表紙タイトル下に書かれている「von einigen Lehrern am k. k. Theresianum」(「テレジアアカデミーの教師たちによる」という意)と記述があることから(図5上から8行目)、当時のスポンサーであったハプスブルク家の女帝マリア・テレジア (Maria Theresia) の名前が優先されたと考えられています。

2) 学名先取権の考証

中央アジアに生息するウスバシロチョウの仲間 *Parnassius infernalis* Staudinger, 1886 は、多くの資料で「*Parnassius infernalis* Elwes, 1886」と Elwes (1886) を原記載としている事例が見受けられました。この点を監修者の Cotton 氏に確認したところ、明快な回答が戻ってきました。「*infernalis* という名前はこの年2度発表されている」というのです。すなわち、Staudinger 氏は「*Stett. Ztg.*, 47(4/6): 195.」¹⁴⁾ (ベルリンで発行された *Stettiner Entomologische Zeitung* という雑誌の47巻(4/6)号の195頁に掲載されたという意)に、Elwes 氏は「*Proc. zool. Soc. Lond.*, 1886(1): 39.」¹⁵⁾ (ロンドンで発行された *Proceedings of the Zoological Society of London* という雑誌の1886巻(1)号の39頁に掲載されたという意)に発表されたのですが、Staudinger 氏の論文は1886年4月下旬に発表され、Elwes 氏の論文は同年6月に発表されているので、*infernalis* Elwes はジュニア・シノニム(同物異名)であると同時にジュニア・ホモニム(異物同名)であったとのことでした。このように出版2か月の差で Staudinger 氏の記載した *Parnassius infernalis* の学名が有効となったということです(学名の先取権の原理)。

このような事例は現在に至るまでいくつもありますが、100年以上前に異なる国でほぼ同時に出版された論文の検証は、極東にいる日本人には現在でも難しいもので、特に出版日の特定には別次元の書誌学的考証の視点が必要になります。



図6 ベルリンで1886年に発行された Stettiner Entomologische Zeitung 誌表紙

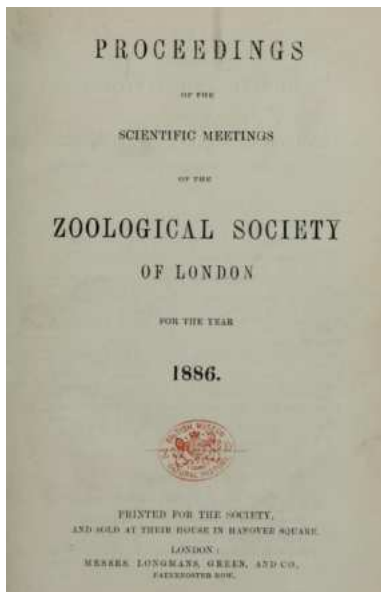


図7 ロンドンで1886年に発行された Proceedings of the Zoological Society of London 誌表紙

7. おわりに

図鑑の基幹事項である学名等の表記確認に関わるエピソードを含めて紹介しました。これはほんの一部のことですが、昆虫図鑑の編集にあたっては、昆虫の知識だけではなく、学名の背景を紐解いていく言語学や書籍発行年を考証する書誌学、そして当時の世界情勢を考証する政治学や歴史学、そして地理学の予備知識が必要であることがご理解いただけるとありがたいです。

謝 辞

本稿を記すにあたり、世界のアゲハチョウ図説の著者中江信氏と当時制作指揮を執られた川井信矢氏には内容を確認いただいたことお礼申し上げます。また、図鑑制作当時に [Denis & Schiffermüller], 1775 のフラクトウールの解析やアドバイスをいただいた上田恭一郎博士にも感謝いたします。

引用文献

- 1) 中江 信, 世界のアゲハチョウ図説. 昆虫文献六本脚. 2021. 336 pp.
- 2) 川井信矢, 昆虫図鑑の作り方 - 自費出版の手引き -. 昆虫文献六本脚. 2024. 8 pp.
- 3) Linnaeus, C., Systema Nature per Regna Tria Naturae, Secundum classes, Ordines, Genera, Species, cum Characteribus, Differentiis, Synonymis, Locis. Tomis I. 10th Edition. Holmiae. Laurentii Slavii. 1758. 824 pp.
- 4) 動物命名法国際審議会, 国際動物命名規約 第4版 日本語版. 日本動物分類学関連学会連合. 2000. 133 pp.
- 5) 大久保憲秀, 動物学名の仕組み 国際動物命名規約 第4版の読み方. 伊藤印刷出版部. 2006. 301 pp.
- 6) 平嶋義宏, 学名論: 学名の研究とその作り方. 東海大学出版部. 2012. 347 pp.
- 7) 平嶋義宏, 学名の知識とその作り方. 東海大学出版部. 2016. 139 pp.
- 8) George Beccaloni, The Global Lepidoptera Names Index. 2004. <https://www.nhm.ac.uk/our-science/data/>

lepindex/advanced

(2024年12月15日閲覧).

- 9) Horn, W. and S. Schenkling, *Index litteraturae entomologicae serie I: Die Welt-Literatur über die gesamte Entomologie bis inklusive 1863*. Self-published. 352 pp.
- 10) Denis, M. and I. Schiffermüller, *Ankündigung eines systematischen Werkes von den Schmetterlingen der Wienergegend*. Augustin Bernardi. 1775. 323 pp., 3 pls.
- 11) Hemming, F., Opinion 516 Determination under the Plenary Powers of the relative precedence to be assigned to certain works on the Order Lepidoptera (Class Insecta) published in 1775 by Pieter Cramer, Michael Denis & Ignaz Schiffermüller, Johann Christian Fabricius, Johann Casper Fuessley, and S. A. von Rottemburg respectively. *International Commission on Zoological Nomenclature*. 1958. pp.1-43.
- 12) Kudrna, O. and J. Belicek, On the 'Wiener Verzeichnis', its authorship and the butterflies named therein. - *Oedippus* 23. 2005. pp.1-32, figs 1-7.
- 13) Sattler, K. and W.G.Tremewan, The authorship of the so-called 'Wiener Verzeichnis'. *Nota lepid.* 32 (1). 2009. pp.3-10.
- 14) Staudinger, O., Centralasiatische Lepidopteren. *Stett. Ent. Ztg.* 47 (4-6). 1886. p.195.
- 15) Elwes, H.J., On Butterflies of the Genus *Parnassius*. *Proc. zool. Soc. Lond.* 1886(1). 1886. p.39.

農学分野における学部・大学の新増設の動向

Current Trends in New Faculty and University Expansion in the Field of Agricultural Sciences

長塚 隆*

近年、農学分野の学部や学科の新設、および設置計画の発表などの報道が増えている^{1, 2, 3)}。それらの報道の中には、伝統的な「農学部」とは一線を画す「新しいスタイルの農学教育」を謳う「農学部」や「農学系学部」が設立されていると指摘する記事もある²⁾。

実際に、表1のように、1980年に九州東海大学農学部(阿蘇)(現・東海大学農学部)⁴⁾が開設された後は農学部の新設は永らく途絶えていた。しかし、35年ぶりに2015年に龍谷大学が農学部を新設⁵⁾すると、2019年には高崎健康福祉大学が農学部⁶⁾を、福島大学が農学群を⁷⁾、2020年には摂南大学が農学部を開設し⁸⁾、最近10年間で合計4つの「農学部」が新設されている。

このように、2010年代後半から農学部の新設が続いている(表1)。農学部だけでなく農学系学部まで含めると、2016年に徳島大学が生物資源産業学部⁹⁾、2018年は岡山理科大学が獣医学部¹⁰⁾、立命館大学が食マネジメント学部¹¹⁾を開設したほか、農業大学として新潟食料農業大学が開学している¹²⁾。

さらに、2020年代に入ると、静岡県立農林環境専門職大学に生産環境経営学部¹³⁾、東北農林専門職大学に農林業経営学部¹⁴⁾などが新設されている。

最近の農学部や農学系学部の新設の背景を検討し、今後の農学部や農学系学部の新設の動向

から将来の方向性を探ってみたいと考える。

日本学術会議の「農学分野」に関する報告

日本学術会議では、2015年に報告書「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準 農学分野」を発表している¹⁵⁾。

報告書では、『従来の農学の専門構成を尊重し発展させながらも、細分化や縦割りの負の側面があることも認識して、農学の対象を総合的に学び農学構成分野全般にわたるリテラシーの高い学生の育成も考えてゆくべきである』と指摘している。

また、報告書では農学は農芸化学、生産農学、畜産学・獣医学、水産学、森林学・林産学、農業経済学、農業工学の7つの基本分野で構成されるとしつつ、『現代的課題に対応するため、それぞれ発展するだけでなく、連携、融合することで新たな発展をとげ、新しい領域も生まれている』と指摘している。

報告書ではこのように農学を巡り環境が変化しており、従来の7つの基本分野は今後も大切であるが、新たな課題に対応できるように他の分野や領域との連携や融合を促進することも求めている。このような指針が近年新設される農学部や農学系学部の内容にも反映しているようである。

近年、新設された農学系学部では、伝統的な

* 鶴見大学名誉教授 〒230-8501 神奈川県横浜市鶴見区鶴見 2-1-3 * Takashi NAGATSUKA, Tsurumi 2-1-3, Tsurumi-ku, Yokohama, Japan 230-8501 nagatsuka-t@tsurumi-u.ac.jp

農学部の基本分野を継承しながらも、農学構成分野全般にわたるリテラシーの高い学生の育成など、学生への教育に新たな視点を導入している学部も多いようである²⁾。

農学部や農学系学部を持つ大学

「全国農学系学部長会議」の2024年4月現在の学部長名一覧では85名となっている。しかし、北海道大学では農学部、獣医学部、水産学部、北方生物圏フィールドセンターと4つの部署を登録しているため、大学数とは一致してしない。

そこで、「全国農学系学部長会議」の学部長名等一覧から登録大学数を算出すると72校であ

った。85の学部は国立50学部、公立11学部、私立24学部となっており、国立大学が最も多かった^{1 6)}。

85学部のうちで「農学部」の名称の学部は34で、全体の40%であった。それ以外の51学部は農学系学部であるが、「農学部」以外の名称を使用していることになる。

実際に、「農学部」以外の農学系学部名は非常に多様であり、以下のように様々な名称が使用されていた。例えば、獣医学部、水産学部、畜産学部、農学生命科学部、農学群、生物資源科学部、農林業経営学部、生物産業学部、農食環境学

表1. 農学系の大学・学部の開設状況

開設年	区分	大学名	学部・学科名	位置	設置者
2024	公立	東北農林専門職大学	農林業経営学部	山形県新庄市	山形県
2020	公立	静岡県立農林環境専門職大学	生産環境経営学部	静岡県磐田市	静岡県
2020	私立	摂南大学	農学部	大阪府枚方市	学校法人常翔学園
2019	私立	高崎健康福祉大学	農学部	群馬県高崎市	学校法人高崎健康福祉大学
2019	国立	福島大学	農学群	福島県福島市	国立大学法人 福島大学
2018	私立	新潟食料農業大学	食料産業学部	新潟県胎内市	学校法人新潟総合学園
2018	私立	岡山理科大学	獣医学部	愛媛県今治市	学校法人加計学園
2016	国立	徳島大学	生物資源産業学部	徳島県徳島市	国立大学法人 徳島大学
2015	私立	龍谷大学	農学部	滋賀県大津市	学校法人龍谷大学
2013	私立	吉備国際大学	地域創成農学部(現農学部)	兵庫県南あわじ市	学校法人順正学園
2012	国立	山梨大学	生命環境学部	山梨県甲府市	国立大学法人 山梨大学
2008	私立	ヤマザキ学園大学	動物看護学部	東京都渋谷区, 八王子市	学校法人ヤマザキ学園

注) 文部科学省年度別開設大学等一覧(令和6年~平成21年;平成30年度開設までは設置届出分を含む)(https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/secchi/index.htm)、および令和6年度全国農学系学部長会議学部長名等一覧を参照し、各大学のHPで確認。

群、生命環境学群、園芸学部、海洋生命科学部、海洋資源環境学部、生命環境学部、繊維学部、国際食料情報学部、食料産業学部、生物資源環境学部、生物資源学部、生命環境学部、応用生物科学部、応用生物学部、生産環境経営学部、環境科学部、生物生産学部、生物資源産業学部、環境園芸学部などである。

これらの中には、農学を一部に使用している

学部名や園芸学部、水産学部や獣医学部のように農学の7つの基本分野名を使用した学部名が多いが、環境や食品・栄養など、狭義の「農業」への視点だけで無く自然環境や食産業との関連を含めた農学系学部名を使用している大学が多くあることが分かる。

日本の大学の情報を集めたサイト「ナレッジステーション」では、「農学」に分類される学部

を持つ大学は全国で 58 校、その内訳は国立 30 校、公立 8 校、私立 20 校であった¹⁷⁾。58 校のうちで「農学部」の名称の学部を持つ大学は 30 校で、全体の 52% で、それ以外の 28 校は農学系学部で、他の名称を使用している大学であった。

ただし、「全国農学系学部長会議」の参加大学で「ナレッジステーション」の「農学」に収録されていない大学もあることから、その結果の評価には注意が必要である。

「全国農学系学部長会議」への参加大学の学部名や「ナレッジステーション」の「農学」に分類される学部名から、社会や産業の変化を反映して、自然環境や食産業との関連を含めた教育や研究を目指す学部名を持つ大学が多いことが分かる。

文部科学省の大学・高専機能強化支援事業

今後の世界的なデジタル化の進展や脱炭素社会の実現に向けて、文部科学省では「デジタルやグリーン」等を成長分野とし、将来この分野を担う理系の人材を増やす必要があるとし、2022 年に「大学・高専機能強化支援事業」を開始した。今後 10 年間で 3000 億円の支援を行うとしている¹⁸⁾。

2023 年（令和 5 年）7 月に初回公募選定の結果が発表され、初回公募選定で 118 件が選定された。

この中で農学系学部の新設を計画している大学は、東都大学（私立）が農学部農業生産学科、順天堂大学（私立）が食農学部、中央大学（私立）が農業情報学部農業生産科学科・生産環境工学科・食料ビジネス学科、京都女子大学（私立）が食農科学部、広島修道大学（私立）が農学部と、合計 5 大学であった¹⁹⁾。

また、2024 年（令和 6 年）6 月には第 2 回公募で、97 件が選定された。

この中で農学系学部の新設を計画している大学としては、和洋女子大学（私立）がバイオ応用科学部醸造化学科・バイオ農芸学科、清泉女学院大学（私立）が農学部アグリデザイン学科、明治国際医療大学（私立）が生態食農学部で、合計 3 大学であった²⁰⁾。

一次公募分と二次公募分を合計すると、農学

系学部の新設を計画している大学は合計 8 大学となる。今までに無い、多くの農学系学部の新設が計画されていることが分かる。

今後の農学系学部の新設予定

文部科学省の「大学・高専機能強化支援事業」の選定校の情報、今後の農学系学部の設置計画についての各大学のニュースリリース、各大学の将来計画などを総合して、今後の農学系学部の設置計画について、表 2 にまとめた。

文部科学省の 2025（令和 7）年度開設予定大学等認可申請一覧には、2025 年 4 月に新設される農学系の学部はなかった²¹⁾。

表 2 の大学の中には、順天堂大学の事例のように 2026 年に千葉県市原市に「食農学部」を新設の予定であったが、2024 年 12 月になって、建築資材の高騰等もあり断念するとの報道があり計画が中止になる事例も起きている²²⁾。

表 2 の記載内容は、あくまで現時点での情報であり、今後の状況の変化により、順天堂大学の事例のような計画変更が起る可能性は十分に考慮する必要がある。

表 2 に記載したのは、学部の新設だけであるが、この他に既存の農学系学部で AI やデータサイエンスなどの発展を背景に新たな学科の新設を目指している大学は複数ある。

今後、農学系学部の新設を目指している大学としては、2026 年 3 月に東都大学が農学部農業生産学科の設置認可の申請を目指している²³⁾。

また、2027 年 4 月には、以下の 6 大学が農学系の学部を新設する予定である。

中央大学は 300 名の学生定員で農業情報学部を新設し、農業生産科学科・生産環境工学科・食料ビジネス学科の 3 学科を設置する計画を発表している²⁴⁾。

広島修道大学は 260 名の学生定員で農学部を食農科学科・生物科学科・環境学科の 3 学科で開設すると発表している²⁵⁾。

同じく、京都女子大学では令和 6 年度事業計画の農学系新学部用校舎建築計画で、2027 年 4 月に新設する食農科学部のための農学系新学部用校舎建築計画の策定を進めている²⁶⁾。

表2 今後の農学系学部の新設予定

開設予定年	区分	大学名	学部・学科名	位置	設置者
2028	私立	和洋女子大学	バイオ応用科学部	千葉県市川市	学校法人和洋学園
2027	私立	明治国際医療大学	生態食農学部	京都府南丹市	学校法人明治国際医療大学
2027	私立	清泉女学院大学	農学部	長野県長野市	学校法人清泉女学院
2027	私立	京都女子大学	食農科学部	京都府京都市	学校法人京都女子学園
2027	私立	広島修道大学	農学部	広島県広島市	学校法人修道学園
2027	私立	中央大学	農業情報学部	東京都八王子市	学校法人 中央大学
2027	私立	東都大学	農学部農業生産学科	埼玉県深谷市	学校法人青淵学園
2026	私立	順天堂大学	順天堂大学、新学部開設を断念	東京都文京区	学校法人 順天堂

注) 文部科学省の「大学・高専機能強化支援事業」の選定校の情報、今後の農学系学部の設置計画についての各大学のニュースリリースなどを参照。

清泉女学院大学が農学部アグリデザイン学科(仮称)を千曲市と協力して千曲市内に新キャンパスを新設予定であるし²⁷⁾、明治国際医療大学は生態食農学部を開設予定である^{28, 29)}。

2028年4月には、和洋女子大学がバイオ応用科学部の新設を準備している³⁰⁾。

表2に示したように、今後も農学系の学部の新設が継続していくと考えられる。

学校基本調査から見た農学系学部の変遷

図1は、文部科学省による学校基本調査の各年次の「大学の学部数」データから農学系学部を抽出して作成した³¹⁾。

1960年から2000年までの農学系学部数は52から64と40年間で12学部増加している。また、農学系学部名の異なり数は10から16と40年間で6増であった。農学系学部数と農学系学部名の異なり数の増加はそれほど大きくなかったと言える。

しかし、2000年から2010年には、それ以前と比べて農学系学部数は64から77と10年間で13学部も増加していた。農学系学部名の異なり数は16から23に10年間で7増と、それ以前の40年での増加数より大きく増えていた。

農学系学部数は2010年以降も2020年で81学部と4学部増え、2024年には84学部で3学部増えている。

このように、農学系学部の増加数は2000年から2010年より少なかったが、2010年以降も農学系学部の増加傾向は維持されていると言える。

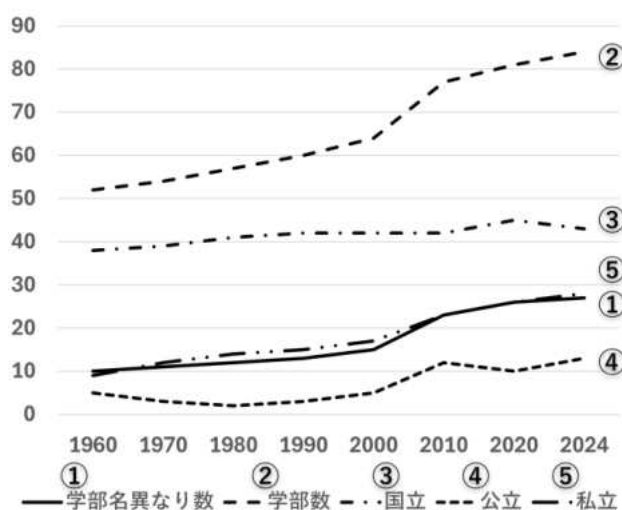


図1 農学系学部数の時代による変化

注) 学校基本調査学部データから農学系学部を抽出

2000年から2010年で増加した13学部は国立大学ではなく、公立大学7校と私立大学6校であり、公立大学と私立大学で農学系の学部が増加しているのが特徴と言える。また、13学部の内8学部は「農学部」以外の名称の農学系の学部であり、農学系ではあるが多様な名称を持つ学部が増加したことが分かる。

さらに、2010年から2024年での学部増は7学部で、国立大学1校、公立大学1校と私立大学5校であり、私立大学で農学系の学部が増加しているのが特徴と言える。また、7学部の内4学部は「農学部」以外の名称の農学系の学部であり、この時期に、農学系で「農学部」以外の名称を持つ学部が増加したことが分かる。

まとめ

複数の視点から「農学部」および「農学系学部」の動向について検討してきた。

まず、現在のジャーナリズムや受験ニュースサイトなどが、伝統的な「農学部」とは一線を画す「新しいスタイルの農学教育」を謳う「農学部」や「農学系学部」が設立されている²⁾と指摘している背景として、日本学術会議の「農学分野」に関する報告での『従来の農学の専門構成を尊重し発展させながらも、細分化や縦割りの負の側面があることも認識して、農学の対象を総合的に学び農学構成分野全般にわたるリテラシーの高い学生の育成も考えてゆくべきである』との指摘があると考えられる。

さらに、農学部や農学系学部を持つ大学の構成や特徴について、「全国農学系学部長会議」にどのような大学・学部が参加しているのかを分析することで、「農学部」以外の名称を有する現在の農学系学部の特徴を明らかにしようとした。

また、今後の農学系の学部の動向を明らかにするために、文部科学省の考え方を確認した。文部科学省では、今後の世界的なデジタル化の進展や脱炭素社会の実現に向けて、「デジタルやグリーン」等を成長分野とし、将来この分野を担う理系の人材を増やす必要があるとし、2022年に「大学・高専機能強化支援事業」を開始しており、多くの大学がこの支援事業に応募している。農学系学部の新設を申請し、採択された大学も多い。

今後の農学系学部の新設予定を明らかにするために、文部科学省の「大学・高専機能強化支援事業」の選定校の情報、今後の農学系学部の設置計画についての各大学のニュースリリース、各大学の将来計画などを総合して、今後の農学系学部の設置計画についてまとめた(表2)。

そこから多くの大学が農学系学部の新設を検討しており、今後も農学系学部の新設が継続することが予測できる。

そこで、わが国におけるより長期的な農学系学部の動向を確認するために、文部科学省学校基本調査の1960年以降の学部データから農学系学部を抽出して分析したところ(図1)、1960年から2000年までは農学系学部数は12学部の

増加であったが、2000年から2010年では農学系学部数は13学部と大きく増加していた。この増加傾向は、2024年現在まで継続していると言える。学校基本調査のより長期的な農学系学部の変遷データから、1990年までの高度経済成長には農学系の学部の増加が少なかったが、2000年以降は農学系学部の新設が増加していることが確認できた。

現在のわが国が置かれた状況、世界の温暖化など気候変動、あるいは国際間の関係の不安定化などを考えるときに、今後、わが国の農業や関連する食品産業などの維持や発展が一層大切な状況となっており、農学系学部の拡充が継続することが必要とされている。

農学系の大学図書館においても、このような農学系の学部の新しい傾向や特徴などを踏まえた新たなサービスの工夫や提供が求められていると言えよう。今後、農学系の学部の増加と農学系図書館との関連については、さらに、検討していく必要があると考えている。

参考文献

- 1) 「大学に農・食・環境学部続々 成長戦略の人材育成狙う」『日本農業新聞』2024年5月9日
<https://www.agrinews.co.jp/news/index/231447>
- 2) 熊谷わか「伝統的な「農学部」とは一線を画す新設が続く「新しいスタイルの農学教育」とは？」『朝日新聞 デジタル』2023/08/12
<https://www.asahi.com/thinkcampus/article-100727/>
- 3) 小林哲夫「【大学の新增設学部】2024年トレンドは「デジタル」と「グリーン」ウェルビーイング、和食文化…」『朝日新聞 Think キャンパス』
<https://www.asahi.com/thinkcampus/article-101251/>
- 4) 東海大学沿革 <https://www.u-tokai.ac.jp/about/philosophy-history/history/>
- 5) 龍谷大学の歴史 <https://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/history.html>
- 6) 高崎健康福祉大学 沿革・組織 <https://www.takasaki-u.ac.jp/guide/overview/history>
- 7) 福島大学の歴史 <https://www.fukushima->

- u. ac. jp/university/history/history. html
- 8) 摂南大学沿革 <https://www.setsunan.ac.jp/aboutus/enkaku.html>
- 9) 徳島大学沿革 <https://www.tokushima-u.ac.jp/about/profile/history/index.html>
- 10) 岡山理科大学 「沿革」 <https://www.ous.ac.jp/outline/history/>
- 11) 立命館大学 「年表で見る立命館」 <https://www.ritsumeit.ac.jp/profile/about/history/chronology/>
- 12) 新潟食料農業大学 「概要」 <https://nafu.ac.jp/overview/>
- 13) 静岡県立農林環境専門職大学 「沿革」 <https://shizuoka-norin-u.ac.jp/overview/history/>
- 14) 東北農林専門職大学 「東北農林専門職大学について」 <https://tpuaf.ac.jp/university/overview/about/>
- 15) 「報告：大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準 農学分野」『学術会議』、2015. <https://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-23-h151009.pdf>
- 16) 令和6年度全国農学系学部長会議 学部長名等一覧 https://www.buchokaigi.nougaku.jp/p3_member/kaiin24.html
- 17) ナレッジステーションで「日本の大学」の「農学」に限定 <https://www.gakkou.net/daigaku/src/?srcmode=gkm&gkm=05003>
- 18) 「大学・高専機能強化支援事業」（成長分野をけん引する大学・高専の機能強化に向けた基金）2022（令和4年）度 https://www.mext.go.jp/content/20230721-mxt_senmon01-74.pdf
- 19) 「大学・高専機能強化支援事業」の公募：第1回選定結果（令和5年7月） https://www.mext.go.jp/content/20230721-mxt_senmon01-72.pdf
- 20) 「大学・高専機能強化支援事業」の公募：第2回選定結果（令和6年6月） https://www.mext.go.jp/content/20240624-mxt_senmon01-000027827.pdf
- 21) 文部科学省：令和7年度開設予定大学等認可申請一覧 https://www.mext.go.jp/content/20231110-mxt_koutou03-000032614_1.pdf
- 22) 「順天堂大学、新学部開設を断念 構想の取りやめ市原市に報告 建設費高騰が最大の要因」千葉日報 2024年12月22日 <https://www.chibanippo.co.jp/news/local/1318579>
- 23) 学校法人青淵学園中期計画第3期（2024～2028年度）「農学部農業生産学科（仮称）2026年3月の設置認可申請を目指す。」 https://www.tohto.ac.jp/media/chuki2024_2028.pdf
- 24) Chuo Vison 2025 農業情報学部.R9 新設 https://www.chuo-u.ac.jp/media/onechuo/20231128/oc_20231128_03-04.pdf
- 25) 広島修道大学：広島県の大学で初の農学部設置 <https://www.shudo-u.ac.jp/press/news/20241204-agriculture.html>
- 26) 京都女子大学：農学系新学部用校舎建築計画の策定（令和6年度事業計画） <https://www.kyotowu.ac.jp/daigaku/jouhou/jigyoo/rhnb3000000050nh-att/boogco0000006hug.pdf>
- 27) 清泉女学院大学：千曲市長と本学学長による農学部（仮称）開設構想の共同記者発表 <https://www.seisen-jc.ac.jp/info/2024/07/post-529.php>
- 28) 明治国際医療大学：生態食農学部令和5年度事業報告書 <https://www.meiji-u.ac.jp/upload/ck/common/files/R05jigyohoukokusyo.pdf>
- 29) 【京都府/南丹市】農×地域シンポジウム 2025 https://www.kyoto-iju.jp/event/event_250215/
- 30) 和洋女子大学：「大学・高専機能強化支援事業」令和6年申請資料 <https://www.niad.ac.jp/media-download/7576/b34cbb00b4f633fb/>
- 31) 文部科学省学校基本調査の「大学の学部数」e-Stat: <https://www.e-stat.go.jp/>
（以上のURLは2025年1月19日に参照）

岩手大学図書館

Iwate University Library

1. はじめに

岩手大学は岩手県盛岡市の中心部に位置し、人文社会科学部、教育学部、理工学部、農学部の4学部で構成される総合大学です。実践的な教育を通じて諸課題に対応可能な人材を育成し、地域および国際社会の発展に貢献することを目指して教育・研究活動を行っています。また、令和7年度には理工学部と農学部を改組し、新たに獣医学部が設立されることになっています。

岩手大学図書館は中央館1館のみで分館がないため、学生同士が学部の垣根なく交流し、ジャンルにとらわれず幅広い資料に触れることができるのが特徴です。総延面積は9,089㎡、閲覧席数500席、蔵書数(冊子体)は図書約90万冊、雑誌17,800タイトルで、このほか電子ジャーナル、電子ブック、データベース等の電子コンテンツは図書館以外の場所からも利用可能です。

2. 岩手大学の歴史と図書館

岩手大学の歴史は、明治期に設立された「盛岡師範学校」や「盛岡高等農林学校」にまで遡ります。その後1949年、農学部、工学部、学芸学部を擁する岩手大学が誕生しました。岩手大学図書館には、前身校の教育に使用された図書や教材の一部が保存されており、歴史的な教育の蓄積を感じることができます。その中でも特徴的なのが盛岡高等農林学校時代の掛図(下図参照)です。掛図とは動植物の生態や農業技術を視覚的に理解するために作成された教材で、パソコンやプロジェクターなどのない時代に学生が農業や獣医学に対する理解を深める助けとなりました。図書館の建物内に併設されているアザリアギャラリーではこれら掛図のほか、当時の教材や盛岡高等農林学校で学んだ宮沢賢治に関連する資料が展示されており、歴史をより身近に感じることができます。



(写真1. 図書館の概観)



(写真2. 盛岡高等農林学校の掛図)

*岩手大学図書館 〒020-8550 岩手県盛岡市上田三丁目18-8

*Iwate University Library 3-18-8 Ueda, Morioka, Iwate 020-8550 Japan



(写真3. アザリアギャラリー展示風景)



(写真5. 1階・カフェコーナー)



(写真4. 宮沢賢治関連資料の展示)



(写真6. 2階・アクティブエリア)

3. 休憩も昼寝も大歓迎！学生生活に寄り添う 図書館

図書館には開架書架や閉架書庫、一般的な閲覧席のほか、学生たちの学びをサポートする多様なスペースが用意されています。また館内は滞在スタイルに合わせてゾーニングされています。1階は食事可能なカフェコーナー、2階は会話しながら自由にグループ学修ができるフロア(アクティブエリア)、3階は半個室(ブース席)など、静かに集中できるフロア(サイレントエリア)、4階はグループで使用できる個室が用意されており、学生は自分の学び方や気分に合わせて場所を使い分けています。



(写真7. 3階・サイレントエリアのブース席)

2階・アクティブエリアの一角にはリクライニングチェアやお昼寝用のクッションソファのコーナーもあり、寝そべて読書をしたり、仮眠をとることも可能です。このように図書館

は学びの場だけでなく、学生たちがリラックスし、充実した時間を過ごすことのできる場所ともなっています。



(写真8. リラックススペース)

2階のサービスカウンターの隣には「学習支援室」が設置されています。ここでは学務課から派遣された専門のスタッフ(主に退職した教員)が大学での学びに関する様々な相談を受け付けています。各分野の専門的な質問・問い合わせにも丁寧に対応しており、試験シーズンには多くの学生でにぎわいます。



(写真9. 学習支援室)

4. 地域の知の拠点を目指して

岩手大学図書館は地域にも広く開放されており、一般の方も利用することができます。また、東日本大震災を中心に自然災害関連資料の収集を行い、災害の記憶や教訓を後世に伝える一助を担っています。

県内唯一の国立大学の図書館として、本学の学生や教職員のみならず、地域の方々にも生涯にわたる学びと新たな知との出会いの場を提供できるよう努めています。



(写真10. 自然災害資料コーナー)

第26回図書館総合展2024 訪問

Report on visiting the 26th Library Fair & Forum 2024

尾崎 聖太郎

昨今に開催された第26回図書館総合展2024に農図協事務局の尾崎と上田が、初日の2024年11月5日(火)に会場となるパシフィコ横浜を訪れました。前回の訪問時と比べ、会場の賑わいや催しものの規模がコロナ禍以前に戻りつつあるような印象を受け、その活気に満ちた雰囲気は自然と安堵感を覚えたものでした。



(写真1 第26回図書館総合展2024入口パネル)

まずはフォーラム会場に足を運び、数多あるフォーラムのなかであらかじめ申し込んでおいた、株式会社サンメディア主催フォーラムに参加しました。ちなみにサンメディア様は、本協議会団体B会員としてご支援、ご協力をいただいております。

今回のフォーラムテーマは「電子リソースの管理どうしてる？ - いちから分かるERMSの今とこれから -」でした。

プログラムの演題等は、この誌面では差し控えますが、講演後のフリートークセッションで

は、ERMSでの電子リソースの購読管理だけでなく、電子書籍の蔵書管理、特に蔵書点検時の所蔵確認がとても便利だとのお話が印象に残りました。電子書籍を印刷体の単行本と同じように所蔵登録を行っている図書館においては、ERMSでの運用を検討してみる価値はあろうかと思った次第であります。

SaaS型の図書館システム Alma のERMSを活用した電子リソースの管理にご関心のある方は、是非とも株式会社サンメディア様にお問い合わせくださいませ。



(写真2 株式会社サンメディア展示ブース)

フォーラム後のアネックスホールでの各社ブース訪問は、先の株式会社サンメディア様を始め、かつて本協議会誌に寄稿していただいた丸善雄松堂株式会社様、日本事務器株式会社様、キハラ・プリザベーション株式会社様にご挨拶を申し上げ、また、ほかの企業様のブースやポスターコーナーにも立ち寄り、展示場での熱気に満ちあふれる感じを味わうことができました。

* 日本農学図書館協議会理事・事務局長 東京農業大学学術情報課程内 〒156-8502 東京都世田谷区桜丘 1-1-1
Seitaro OZAKI, JAALD, Tokyo University of Agriculture.1-1-1 Sakuragaoka, Setagaya-ku, Tokyo, 156-8502, Japan



(写真3 キハラ株式会社ブース
歴史的図書館用品展示)



(写真4 専門図書館協会パネル)



(写真5 全国の災害アーカイブ実施図書館パネル)

2024年度第3回理事会議事録

日時：2024年12月4日（水）13時～13時35分

場所：Zoomによるオンライン会議

出席者：長塚隆（会長）、尾崎聖太郎（事務局
長）、海野かおり、川端幸枝、松下裕、余
川浩太郎、上田広子（事務局員）

欠席者：下田尊久

議題：1. 議事録署名人の選任

出席者の確認に続き、本議事録署名人として、海野理事及び松下理事を指名した。

2. 前回議事録の確認

前回（2024年度第2回理事会）議事録の確認を行い、異議なく承認された。

3. 2024年度上期の主な活動結果

事務局より、資料「2024年度上期の主な活動」について報告があり、異議なく承認された。

4. 2024年度上期会計報告

事務局より、資料「予算管理月報」について報告があり、異議なく承認された。

5. 2024年度下期の活動計画

事務局より、資料「2024年度下期の活動計画」について説明があった。

1) 会誌の刊行

異議なく承認された。

2) セミナーの開催

一部修正があり、長塚会長より、セミナー開催日程は2025年3月7日（金）15時からであることの説明があった。内容については、異議なく承認された。

6. 会誌の完全オンラインジャーナル化（冊子体廃止）

事務局より、今後のスケジュール及び会員宛の通知内容について説明があり、異議なく承認された。

7. その他

特になし。

議長 長塚 隆

議事録署名人 海野 かおり

議事録署名人 松下 裕

2024年度第3回セミナー委員会

日時：2025年1月23日（木）10：00～11：00

場所：Zoomによるオンライン会議

出席者：長塚隆会長・委員長、海野かおり委員、川端幸枝委員、豊田恭子委員、福田直美委員、松下裕委員、尾崎聖太郎事務局長、上田広子事務局員

欠席者：なし

議題：1. セミナー当日の分担（司会、タイムキーパー、質問対応、記録など）

2. セミナーの進め方全般

3. その他

会員各位

2025年1月24日

特定非営利活動法人日本農学図書館協議会

会長 長塚 隆

日本農学図書館協議会誌の完全オンラインジャーナル化

(冊子体廃止) についてのお願い

平素より本協議会の会誌出版事業に格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

現在、当協議会では会員のみなさまに冊子体を季刊で年4回頒布致しております。一方では、会誌に掲載された貴重な記事を広く社会に還元する目的で1年後には当協議会ホームページで全文をPDF公開しております。現在の社会全体のオンライン化の進展を踏まえて、また、経費削減に向けた取り組みとして、冊子体の継続の是非について検討してまいりました。

毎年の総会資料で、みなさまご承知のように、当協議会では経費の節減に努めてまいりましたが、近年、単年度会計は赤字で、過去に蓄積した資金からの持ち出しが続いております。当協議会の継続のためには、さらなる経費の削減が必要な状況となっておりますこと、ご理解をお願いいたします。

2024年5月15日に開催されました当協議会理事会において、財政赤字の解消のために2025年度(2025年4月-)より会誌の冊子体の発行を廃止し、完全オンラインジャーナル化への検討を進めることになりました。

その後、理事会・編集委員会で検討を進め、2025年6月に発行される第218号より、当協議会会誌は完全オンラインジャーナル化し、会員のみなさまには指定のメールアドレスに会誌(PDF版)をお送りすることに変更させて頂きたいと考えております。また、当協議会ホームページから、会員のみなさまにお送りする会誌閲覧用のパスワードにより最新号の閲覧が可能となります。このような会誌のオンライン化につきましては、当協議会の今後の継続のための対処として、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

今後とも、日本農学図書館協議会の会誌出版事業につきまして、従前と変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

NPO法人日本農学図書館協議会では、当面する図書館の課題や日常の図書館員の声など、自由にご投稿していただくことを願っております。ご不明な点は事務局までお問い合わせください。

【問い合わせ先】 E-mail : jaald@nifty.com

日本農学図書館協議会誌 投稿要領

2020年5月1日改定

1 趣旨

この要領は、日本農学図書館協議会誌の投稿に関する取り扱いについて定めるものとする。

2 投稿者の資格

本誌に投稿できる者は、農学系図書館の活動に賛同する者とする。

3 執筆及び投稿要領

原稿執筆に当たっては、本要領及び別に定める原稿執筆要領に従うものとする。

4 投稿原稿の取り扱い

- (1) 投稿原稿は会誌編集委員会においてその採否を決定する。
- (2) 投稿された原稿は、原則として返却しない。

5 謝礼

- (1) 執筆者には、原稿が掲載された「日本農学図書館協議会誌」を3部贈呈する。
- (2) 投稿及び依頼原稿の稿料は別に定める。

6 著作権

- (1) 本誌に掲載する著作物の著作権は、日本農学図書館協議会に帰属する。
- (2) 執筆者自身が当該著作物の再利用を希望する場合、日本農学図書館協議会は、再利用が学術研究及び農学図書館業務改善の進展に資するものである場合は、これを認めることがある。
- (3) 第三者から、論文の複製及び転載などに関する許諾の要請があり、日本農学図書館協議会が必要と認めた場合は、許諾することがある。

7 個人情報

編集の過程において入手した個人情報は、本誌の編集刊行に関する活動以外の目的には使用しない。

8 その他

- (1) ホームページに発行した会誌の目次及び本文を逐次掲載する。会員は、発行されたパスワードにより会誌本文を直接閲覧することができる。
- (2) 冊子会誌に掲載する図表、写真はモノクロとするが、ホームページにはカラーで掲載する。

日本農学図書館協議会誌 原稿執筆要領

2023年11月13日改定

1 趣旨

この要領は、日本農学図書館協議会誌の原稿執筆に関する事項を定めるものとする。

2 投稿原稿は、次の要領で作成し提出する。

- (1) 原稿の受付は、随時とする。
- (2) 原稿は、Word形式もしくはテキスト形式を使用し、横書きで10,000字程度（図表・写真は1枚当たり250文字換算）とする。また、図表も原則として、電子化したデータで提出するものとする。刷り上りは4ページ程度を想定する。
- (3) 文中の見出し番号の表記は、1. 1) ①とする。
- (4) 図表の見出しは、図1及び表1とし、図の下および表の上に記したうえで、挿入箇所を本文欄外に指示する。
- (5) 注記もしくは引用文献等は、本文の該当箇所右肩に1)と記し、原稿の末尾にまとめて記載する。なお、記載例は①～③の通りとする。
 - ① 編著者名『書名』（シリーズ名）出版社、出版年（西暦）、引用ページ
 - ② 執筆者名「論文名」『雑誌名』巻号、発行年月、引用ページ
 - ③ 項番は、1), 2), 3)・・・とし、半角片括弧に統一する。
- (6) 原稿には、表題及び英文タイトル、執筆者氏名、所属機関、住所及びローマ字名、所属機関、住所の英文名を添付する。
- (7) 原稿の提出は下記宛てとし、日本農学図書館協議会事務局が受領した日をもって原稿受付日とする。

〒156-8502 東京都世田谷区桜ヶ丘1-1-1
東京農業大学 教職・学術情報課程内
NPO法人 日本農学図書館協議会事務局
jaald@nifty.com
- (8) 執筆者の校正は、再校までとする。
- (9) 「別刷」を希望する者は、校正の際に必要な部数を日本農学図書館協議会事務局に連絡すること。なお、経費(実費)については、本人負担とする。

(編集委員)

委員長	下田 尊久	個人会員
委員	棚橋 佳子	東京農業大学学術情報課程
	長塚 隆	鶴見大学名誉教授
	余川 浩太郎	国立研究開発法人 水産研究・教育機構 本部研究戦略部
事務局	尾崎 聖太郎	日本農学図書館協議会

会 員 頒 布

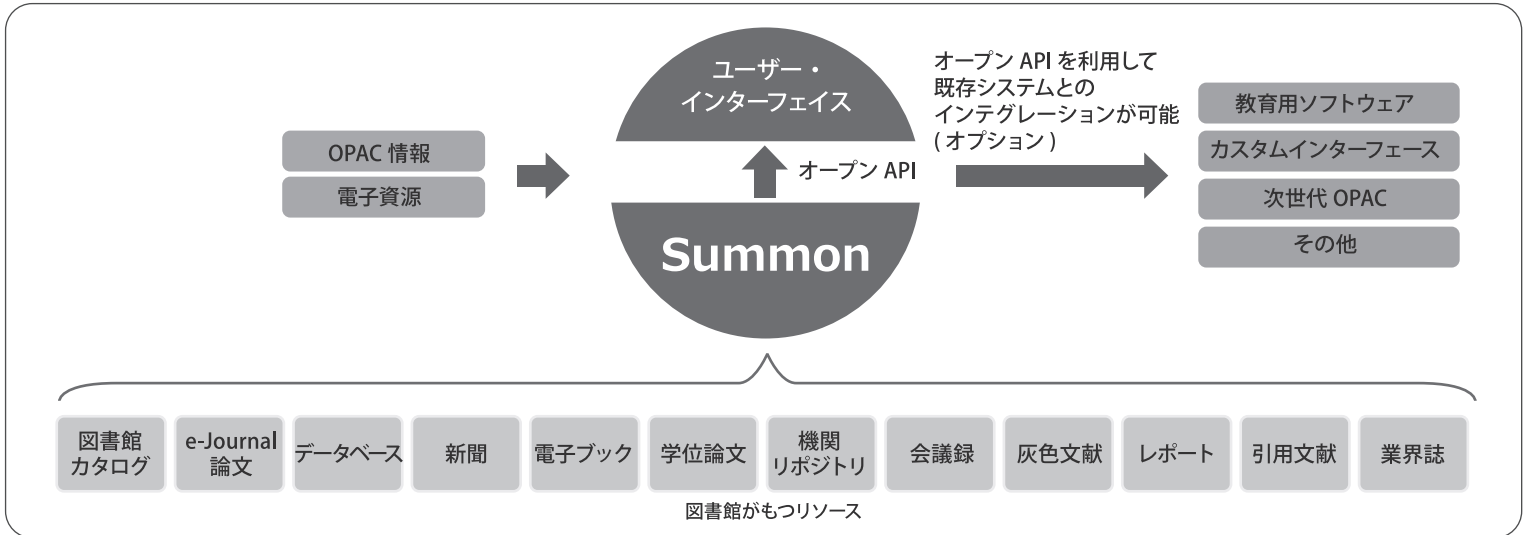
日本農学図書館協議会誌 217号
2025年3月1日発行
発行人 長塚 隆
編集・発行 特定非営利活動法人日本農学図書館協議会
住 所 〒156-8502 東京都世田谷区桜丘 1-1-1
東京農業大学教職・学術情報課程
TEL&FAX：03(3408)5077
e-mail：jaald@nifty.com
URL：http://jaald.life.coocan.jp
印 刷 所 (株)サン・プレーン
住 所 〒114-0014 東京都北区田端 6-1-1
田端ASUKAタワー17F

I S S N 1342-1905



図書館が提供する様々な種類の学術資料を一つの検索窓からまとめて検索することができます

Summon は Ex Libris 社のウェブスケールディスカバリーサービスです。Google のようなシンプルなインターフェイスから図書館独自の広範囲で信頼性の高い情報へすばやくアクセスすることができます。



POINT 1

すべてのリソースを一度に検索

すべてのリソースをたったひとつの検索窓から見つけることができます。現在のインターネットユーザーのニーズを満たす新しい学術情報の検索スタイルを提供します。

POINT 2

信頼のおけるコンテンツだけを検索

検索対象はすべて図書館のコンテンツです。信頼性が高く、しかも入手可能なコンテンツにのみアクセスすることができます。

POINT 3

瞬時に検索結果を表示

図書館で利用できるすべてのリソースのメタデータをあらかじめハーベスティングさせるので、Google などの検索スピードを実現します。



図書館システムと連携して所蔵・貸出情報をリアルタイムで表示

冊子の検索結果には現在の貸出し状況や保管場所が表示されます。検索結果をクリックすると図書館 OPAC のライブリンクになっています。

availability : 貸出中、中央図書館所蔵

SaaS 型サービスなので導入・メンテナンスの手間がかかりません

Software as a Service(SaaS) で提供されるため、サーバーの設置やアップデート、メンテナンスといった作業に人員を割く必要はありません。常に最新で最適な状態でサービスを利用することができます。

目的の資料への確にナビゲートします

ファセット機能によりフォーマット、主題、出版年などによる絞り込み検索を効率的に実行できます。また、360Link などのリンクリゾルバと連携して該当の資料に確実にたどり着くことができます。



お見積もりやトライアルのご相談は...



株式会社サンメディア e-Port カンパニー

e-mail : e-port@sunmedia.co.jp

東京都中野区本町 3-10-3 PORT ビル Tel : 03-3299-1575